新年のごあいさつ

人と人・人と地域がつながり支えあう『地域共生社会』の実現に向けて
～スポーツを活用したまちづくりで、元気に輝く飛躍の年に～

大河原町長　齋　清志

明けましておめでとうございます。社会に閉塞感が漂う予測困難な時代にあっても、皆様におかれましては日々の暮らしと生きがいを守りながら穏やかな新年をお迎えのことと存じます。また、日頃の町政への温かいご理解とご協力に対しまして心より感謝申し上げる次第です。

さて、昨年は3年に及ぶコロナ禍・ロシアのウクライナ侵攻・経済の混乱と物価高騰など、国民生活には総じて厳しい1年でした。また、全国的には地震や豪雨などの自然災害が頻発し、防災・減災や国土強靭化に向けた取り組みの推進が一層求められました。そして、人口減少を克服し地域経済の活性化に資する地方創生への取り組みに、自治体間の格差の広がりにつながる懸念を実感する年でもありました。共生の視点を欠く行き過ぎた選択と集中の強調に対する警鐘となったものと認識しているところです。

一方、日本中に勇気と元気を与える明るい話題もありました。ＭＬＢ・エンゼルスの大谷翔平選手の2年連続の活躍や、サッカー・カタールＷ杯で強豪国を撃破した日本選手の気迫は、スポーツの持つ力が国民の一体感と活力を共有する素晴らしい機会となることの証明になったものと受け止めています。

また、昨年の本町においては、若い世帯の転入により人口・子どもの数・働き手の数など現状を維持する状況が続きました。ふるさと寄附金も昨年度実績（24億円弱）並みの堅調な推移となり、歳入の総額が安定して確保されています。そして、11月には特筆すべきビッグニュースが発表されました。文部科学省スポーツ庁が、スポーツを活用した地方創生やまちづくりに積極的に取り組む自治体を表彰する『スポーツ・健康まちづくり優良自治体表彰2022』を本町が受賞する栄誉に輝いたのです。スポーツの持つ力の波及効果に着目し、町長部局に『スポーツまちづくり推進課』を新設するとともに、スポーツによるＷｅｌｌ-ｂｅｉｎｇ（心身ともに健康で幸福な状態を継続する）なまちづくりを推進することが評価されたものです。

このような現状を踏まえて、引き続き『ひと・まち・桜が咲きほこる先進のまち』を目指してまいります。加えて、スポーツが持つ直接的なつながる力やコロナ禍の教訓も活かしながら、社会的包摂の推進や誰一人取り残さない視点も大切に、人と人・人と地域がつながり支えあう『地域共生社会』の実現に邁進（まいしん）したいと考えています。

また、人口減少の抑制につとめ、高齢者の健康意識の高さを活かして『元気で長生きなまち』のブランド化を図ります。さらに、引き続き子どもたちの学力向上や子育て支援の充実に注力し、『デジタル田園都市国家構想』に基づく施策にも取り組んでまいります。そして、今後完成する白石川右岸河川敷の『千本桜スポーツパーク』には、新しい賑わいの創出による広域連携と官民協働の実践に大きな期待が寄せられています。話題のこの一大プロジェクトは、桜の活用を絡めた堤内地（田んぼ側）整備への着手につなげていく計画です。

結びに、『地域共生社会』の実現にもつながる『認めあい・支えあい・活かしあう』本町の掲げる基本理念を再確認し、スポーツを活用したまちづくりで元気に輝く飛躍の年となるよう挑戦し続ける決意です。

本町の限りない発展と皆様のご多幸を祈念し、新年のご挨拶とさせていただきます。今年も宜しくお願い申し上げます。

町長・町議会議長

信頼される議会を目指して

大河原町議会議長　岡崎　隆

明けましておめでとうございます。

町民の皆様には輝かしい令和5年の新春を迎えられましたこと、心よりお喜び申し上げます。

また、日頃より大河原町議会に対しましても深くご理解を賜っておりますことに議会を代表し感謝申し上げます。

まず初めに、今般のコロナ禍の中で感染された方々、不安な生活を強いられている町民の皆様に心からお見舞いを申し上げます。

そのような状況の中でも、町民の健康な暮らしを守るために奔走されている町内医療従事者の方々、休日返上で町民のワクチン接種の対応を担っていただいている役場職員の皆様に重ねて心から感謝と敬意を表します。

さて、昨年を振り返りますと、一昨年同様新型コロナウイルスの感染が収束することなく、11月から第8波へと突入するなど、議会運営においても大変判断に苦しむ機会が多い1年でもありました。しかし、昨年の議会の年間活動として、町民の有志団体からの要請による議員の出前懇談会が初めて開催されたこと、11月に議会報告会を3会場で3年ぶりに開催できたことをご報告申し上げます。多くの町民の皆様にご参加いただき、要望や質問を数多くお受けすることができました。ウィズコロナに向けた準備として少しずつ前に進む活動ができたと受け止めております。町民の皆様からは大変厳しいご指摘、ご意見も寄せられ、町民本位の確かな議会には至っていないもどかしさも実感いたしました。

今後もたゆまぬ政策提言に励み、「議員の資質」という面におきましても一人ひとりが町民の皆様に信頼される議会人となるよう、より一層強いリーダーシップをもって取り組むことをお誓い申し上げます。

また、今年の干支は兎ですが東日本大震災の年も兎年でした。関連死を含めた死者不明者は２２０００人を超え、地球規模の大災害に誰もが心を痛めたことを思い出しますが、12年の間に復興を阻むかのように頻発する自然災害、令和元年の台風被害や長引くコロナ禍が追い打ちをかけ、復興が進むどころか被災地に留まらず国全体が疲弊し、地方の置かれる立場はますます厳しさを増すことは避けられないでしょう。

そして、過去に経験の無い、生活そのものが一層厳しさを増していく今後に向け、一番身近で町民と町のつなぎ役として活動する私たちの真価が問われる節目の年であるという覚悟をもって挑むことが求められております。更なる物価高騰に苦しむ町民の命と暮らしを守るための施策に執行部とともに取り組むことは待ったなしであると考え行動いたします。

結びに、昨年は仙台育英学園高等学校硬式野球部が甲子園で優勝の栄誉を掴み、初めて深紅の優勝旗が白河の関を越え、多くの東北人が感動し涙が止まらなかったこと、サッカーワールドカップでは優勝経験のある強豪スペイン、ドイツを撃破し、決勝トーナメントに進出し日本中を勇気づけたことなどのように、本年も感動の多い年でありますことを願うとともに、何よりも町民の皆様のご健勝とご多幸を心からお祈り申し上げ新春のご挨拶とさせていただきます。